

NO	大分類	小分類	主 な 意 見	対応内容
1	学校教育	学力	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実について、学校において、どのように進めていくのか、もう少し具体的な方策の記述があってもいいのでは。	ご指摘を踏まえ、「1-1 確かな学力の育成」主な取組①に「児童生徒の学習状況の確実な見取りと、個別の支援を要する児童生徒に対する手立ての充実」、「基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得や思考力・判断力・表現力の向上を目的とした問題データベース等の活用促進」など具体的な取組を記載している。
2		高校教育	「⑤高校教育の充実」について、進学力や就職力の強化は重要な課題であるので、具体的な取組などで考えていけたらいいのではないかな。	ご指摘を踏まえ、「1-5 高校教育の充実」主な取組①に「スクールミッションやスクールポリシーに基づく資質・能力の育成」や主な取組②に「社会的・就職的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成」について記載している。
3		幼児教育	幼児教育段階でのSTEAM教育について、少子化などによって自然遊びが減っているので、自然遊びでの保育を強化する事で、幼児教育の面では充実すると思う。	ご指摘を踏まえ、「1-4 幼児教育の充実」主な取組①に「幼児教育センターを核とした、各種研修情報の発信や好事例等の収集・活用促進」を記載している。 幼児教育センターを核とした研修において、幼児が身近な自然や環境に自ら関わりながら遊ぶことで小学校以降の科学的な物の見方や考え方につながるという内容を既に取り入れているところ。引き続き研修内容などの充実を図っていく。
4		キャリア教育	現在、担い手不足が大きな問題になっている。そういった中で、子どもたちが、「大分で学びたい」や「大分で就職したい」など、魅力ある大分県になって欲しい。そうするには、③の「主体的に社会の形成に参画できる人材育成」にあるとおり、早い段階から、企業などとの関わり合いを深くしていただきたい。	ご指摘を踏まえ、「2-3 主体的に社会の形成に参画出来る人材の育成」主な取組②「社会見学(小学校)や職場体験(中学校)、インターシップ(高等学校)の実施、産業人材の活用など、産業界等との連携・協働」を記載している。
5		グローバル人材	他県と同じことをしても意味がないので、大分県独自の教育施策があればいいと思う。 例えば、小学校段階から語学を3つ勉強させるとかするとグローバル人材の育成につながっていくのではないかな。	ご指摘を踏まえ、「2-2 グローバル人材の育成」主な取組①に「世界で活躍する人材に触れる機会の充実や留学生等を交えた協議・発表などを通じた世界に挑戦する気概を持つ人材の育成」、主な取組②に「外国語指導助手(ALT)や県内大学在籍の留学生や海外生徒等との国際交流などによる異文化理解の促進」を記載している。 県内独自の取組として、小中学生を対象にイングリッシュ・デイ・キャンプを実施し、学んだ英語を活用し、コミュニケーションの楽しさを感じることができるようにしている。 また、APU等の留学生との交流を通して、語学だけではなく多様な文化に触れる機会を充実させ、グローバルに活躍できる人材の育成を図っていきたい。
6		グローバル人材	中学校卒業段階でCEFR A1レベルを目標年度で60%以上を目指すとするが、興味関心がない子どもにとってはすごく難しい目標である反面、関心がある子どもにとっては英検3級程度は低い目標だと思う。	文部科学省の第4期教育振興基本計画(令和5年度～9年度)において、生徒の英語力に係る目標値を「中学校卒業段階でCEFR A1レベル60%達成」としており、それに則って設定している。各学校における授業の質の更なる向上を図り、どの生徒にも義務教育卒業段階で身に付けるべき英語力を育成していく。

第1回大分県長期教育計画委員会における委員の主な意見への対応

令和6年6月10日開催

NO	大分類	小分類	主 な 意 見	対応内容
7	学校教育	グローバル人材	大分には廣津留すみれさんのような世界に羽ばたいた素晴らしい事例があるが、このような世界標準を求めるのか、それとも日本標準を求めるのかといったことを教職員指導の中で共通認識を図ることが必要。私はこれからはやはり世界標準を見ていかないとグローバル化やデジタル化に対応できる人材が育っていかないとと思う。大分県の学校では情報科学高校がこれまで工業科と商業科だったのものをデジタル化に対応した学校に変えた好事例もある。このような好事例を横展開することで世界に羽ばたけるような人材が育っていくのではないかと。 また、国が子どもたちに世界へチャレンジする機会を与えているが、大分県でもそのように大分から世界に羽ばたけるような独自プロジェクトがあれば良い。	ご指摘を踏まえ、「2-2 グローバル人材の育成」主な取組①に「世界で活躍する人材に触れる機会の充実や留学生等を交えた協議・発表などを通じた世界に挑戦する気概を持つ人材の育成」を記載している。 世界標準を求めた大分から世界へ羽ばたく人材の育成については、高校生を対象にしたグローバルリーダー育成塾を年4回実施している。 またスタンフォード大やAPUとの連携によるオンライン講座や学校で取り組むグローバル活動を支援しているところ。 引き続き、挑戦意欲と責任感・使命感を育成するため、世界で活躍する人材に触れる機会の充実などを図っていききたい。
8		子どもの居場所	従来の教育体制の中で、最も課題に挙げられている、「子どもたちが学校から離れている」といった現状があり、本当に子どもたちの居場所があるのか、充実した学校教育になっているのか、問われている。	ご指摘を踏まえ、「3-1 いじめ・不登校対策の充実・強化」主な取組①に「子どもの自己肯定感や自尊感情、他者を思いやる心などを育むための「人間関係づくりプログラム」の活用や道徳教育の充実」、主な取組④に「校内教育支援ルームやスタディサポートクラブ(補充学習教室)での学習、ICTを活用した自宅学習など、不登校児童生徒に対する個に応じた効果的な支援の充実」を記載している。 これまでも「人間関係づくりプログラム」の活用や道徳教育の充実を通して、子どもの自己有用感や自尊感情、他者を思いやる心などを育んできており、引き続き取り組んでいきたい。
9		不登校	不登校について打つ手がなく非常に悩ましい状況である。様々な外部支援を活用しているが、子どもの心の内面に入った事が出来ていない。小学校に入学しても、その段階から学校に行きづらい子どもが発生しているので、幼児教育の在り方の見直しと幼少の接続をきめ細やかにする必要があると思う。	ご指摘を踏まえ、「1-4 幼児教育の充実」主な取組①に「幼児教育センターを核とした、各種研修情報の発信や好事例等の収集・活用促進」、主な取組②に「幼保小が協働した「架け橋期のカリキュラム」の作成促進」を記載している。 幼児・児童の一人ひとりの内面に温かい関心を寄せることの大切さについては、これまでも幼児教育センターの研修に取り入れており、引き続き取り組んでいく。 幼児期の教育と小学校教育の接続をきめ細やかにしていくことについては、全ての市町村が架け橋期のカリキュラムを作成していけるように支援していくとともに、架け橋期のカリキュラムに係る指標について設定したい。

第1回大分県長期教育計画委員会における委員の主な意見への対応

令和6年6月10日開催

NO	大分類	小分類	主 な 意 見	対応内容
10	学校教育	不登校	県内に20近くフリースクールがあるが、フリースクールは法律で定められた学校ではないので、運営をしている代表の意見や考えなどに左右される個性的な教育の場であると思う。 フリースクール連合会では、各フリースクールが子どもたちの教育機会を保障出来る教育現場になるように、そこで働くスタッフに対する研修などを行っている。可能であれば県がフリースクールへのサポートをフリースクール連合会に委託してもらえると学校現場以外の教育の場がもっと面白いものになるのではないかなと思う。	ご指摘を踏まえ、「3-1 いじめ・不登校対策の充実・強化」主な取組④に「学習教材の提供などフリースクールとの連携強化」を記載している。 昨年度、各フリースクールを訪問し、意見をお聞きした際に、フリースクール職員の資質向上について要望があったことから、研修を実施したところである。 引き続きフリースクールとの連携については、フリースクール連合会とも意見交換を行いながら行っていく。
11		防災教育	「(3)安全・安心で質の高い教育環境の確保」について、「②安全・安心な教育環境の整備」の黒ボツ1つ目に「学校の立地環境等、地域の実情に応じた防災教育の推進」が具体的に何をすることを意味しているかわかりにくい。私は学校で防災教育の講座を開いているが、これからは地域の事情を把握している学校の教員が子どもたちに教えていく時代ではないかなと思う。そのためには学校に配置している防災教育コーディネーターの研修を県が充実させていくことが重要。	ご指摘を踏まえ、「3-2 安全・安心な教育環境の整備」主な取組③に「地域の災害リスクを踏まえた防災活動など、防災教育コーディネーターを中心とした組織的・実践的な防災教育の充実」と具体の取組を記載している。 防災教育を充実させるには、地域の立地条件等を踏まえた体制強化や防災教育を実施するとともに、地域の防災リーダーなどの資格者やボランティアなどの人材などを教育資源として活用することが重要なため、これらの取組を推進していく。 その中核となるのが各学校に配置している防災教育コーディネーターであることから、コーディネーターを対象とする研修についても引き続き充実させていく。
12		学校選択	保護者の子どもの育て方や子どもの捉え方が多様化しており、その多様化が社会的に認められつつあるが、学校現場があまり多様化に対応出来ていないと思う。社会の流れと学校現場とのギャップをどのように埋めていくのかだったり、学校を選べるようにするといった政策を考えるべきだと思う。	ご指摘を踏まえ、「3-1 いじめ・不登校対策の充実・強化」主な取組④に「多様な学びの場の確保」を記載している。 また、学校選択制は学校教育法施行令、学校教育法施行規則で定められており、本県においても多くの市町村で取り入れられている。
13	社会教育	生涯学習	資料2の17Pの主な取組に「地域の学習拠点としての公民館・図書館などの機能強化」とあるが、公共施設単体では、なかなか利用が進まず、複合施設の方が利用されやすい。拠点機能の強化のためには、施設の複合化という視点が大事ではないか。	社会教育施設の複合化については、設置主体である各市町村が公共施設の管理に関する行動計画をそれぞれ策定し、その中で複合化を進めるかを検討しているところ。 市町村施設の建替えの機会があれば、全国の好事例の紹介等助言を行いたい。

第1回大分県長期教育計画委員会における委員の主な意見への対応

令和6年6月10日開催

NO	大分類	小分類	主 な 意 見	対応内容
14		家庭教育支援	取組について、地域と共に子育てや企業・産業とともに子育てをする。といった視点が少ないと感じた。	ご指摘を踏まえ、「5-2地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」主な取組③に「家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等への啓発」を記載している。
15	社会教育	家庭教育支援	不登校を含め、学校の先生が様々なことに向き合ってください中、親世代としては、PTAにしろ家庭教育学級にしろ、興味関心の高い親は参加する(できる)し、そうじゃない方は参加しない(できない)ということ、非常に感じている。 放課後の時間に余裕がある家庭は、子どもにたくさん教育機会を確保できるし、余裕がない家庭は確保できない。 また、ゲームの普及により、どんどん体力も減っているし、学習もできない、スポーツもできないという中で生活しており、大変格差を感じる。家庭の余裕を作ることが、教育とか子どもに直結するのではないか。 SSWが学校に入ってきてくれているが、家庭が申請すれば受けられるサービスが県内にはたくさんある点をもっと詳しく知ってもらった上で、家庭に余裕を作るっていう視点も込みで、子どもの教育を考えてもらえるとよい。 子どもに熱心な教育を確保するという視点からでいくと、どうしても保護者には「仕事があるし、余裕がない」という反応を受けて、そこで終わってしまう。 フリースクールは、教育だけでなく福祉の視点から、保護者が熱を出したらご飯を作ったり、部屋の掃除をしたり、子どもに全く関係ない助言をするなど、かなり多岐にわたってサポートを行っているが、そうしなければ子どもを育てないと難しい部分がある。 フリースクールで実践している中で、保護者に余裕ができることが、何よりも子どもの教育の充実に直結するっていうのが実感としてある。 ぜひSSWを活用した、家庭へのアプローチっていう視点からの施策も検討してもらいたい。	ご指摘を踏まえ、「3-2 安全・安心な教育環境の整備」主な取組④に「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を活用した課題を抱える子どもへの支援体制の充実・強化」、「ヤングケアラーや貧困など困難な家庭状況に左右されない学びの保障に向けた、福祉等関係機関との連携強化」を記載している。